

単元名 リコーダーの基本的な奏法を身に付けてアンサンブルを楽しもう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きを聴きながら合わせて演奏する技能を身に付けることができる。
- (2) 曲想と音楽の構造との関わりについての知識や全体の響きを聴きながら合わせて演奏する技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫している。
- (3) 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

標準的な展開例

12260104_001

【教材名】 きらきら星 浜辺の歌 威風堂々 ◆カノン3 うぐいすのカノン (P. 14～P. 15)

【準備等】 ワークシート、タブレット

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの音色や響き、旋律のまとまりを聴き取りながら表現を工夫する。</p> <p>★「きらきら星」をグループで演奏しよう。</p> <p>○「きらきら星」を表現する際に必要なアルト・リコーダーの新しい運指を確認し、上のパートをソプラノ・リコーダーまたはアルト・リコーダーで、下のパートをアルト・リコーダーで表現する。</p> <p>○「きらきら星」の4小節の旋律のまとまりやブレスの位置などを生かし、2～4人のグループで上下のパートをそれぞれ聴き取りながら合わせて演奏する。</p> <p>2 二部形式による旋律のまとまりを生かし、ソプラノ・リコーダーまたはアルト・リコーダーで表現を工夫する。</p> <p>★「きらきら星」と「浜辺の歌」をグループで発表しよう。</p> <p>○グループでソプラノ・リコーダーまたはアルト・リコーダーの分担を様々に変え、「浜辺の歌」を表現する。</p> <p>○4小節の旋律のまとまり、rit.の効果などを考え、ブレスの位置なども含めて表現を工夫する。</p> <p>○グループで「きらきら星」と「浜辺の歌」の演奏を発表し、発表後に工夫したことや注意したことなどをワークシートにまとめる。</p> <p>3 様々な運指やサミングを生かして表現を工夫する。</p> <p>★「威風堂々」をグループで演奏しよう。</p> <p>○「威風堂々」を表現する際に必要なアルト・リコーダーの新しい運指を確認し、上のパートをソプラノ・リコーダーまたはアルト・リコーダーで、下のパートをアルト・リコーダーで表現する。</p> <p>○繰り返しを確認し、4小節の旋律のまとまりやブレスの位置などを生かして表現を工夫する。</p> <p>○グループで発表し、発表後に工夫したことや注意したことなどをワークシートにまとめる。</p>	<p>・タブレットで動画を撮影することにより、全体の響きを客観的に聴かせる。</p> <p>【評】 創意工夫を生かし、全体の響きを聴きながら合わせて演奏する活動を通して、「技能」を評価する。</p> <p>・新しい運指を確認させる。</p> <p>・二部形式を生かした表現を考えさせる。</p> <p>・タブレットで撮影し、全体の響きや表現の効果を感じ取らせる。</p> <p>【評】 曲想と音楽の構造との関わりを理解し、創意工夫を生かして全体の響きを聴きながら合わせて演奏したり、まとめたりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・全員が両パートを演奏できるように上下のパートを入れ替えて練習させる。</p> <p>【評】 曲想と音楽の構造との関わりを理解し全体の響きを聴きながら合わせて演奏する技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】 器楽表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーを用いて、「きらきら星」ではリコーダー・アンサンブルを、「浜辺の歌」では二部形式を生かした表現を工夫させる。「威風堂々」では、リコーダーの組み合わせも工夫しながら、アンサンブルで表現させる。学習状況により、さらに、「カノン3 うぐいすのカノン」を表現することでアンサンブルの楽しさを味わわせることもできる。

【共通事項】 音色・旋律・テクスチャ・形式・構成